



教育目標「学ぶ吉中 鍛える吉中 心の吉中」

吉田中学校だより

令和8年1月16日発行第22号

Tel. 0256-93-3235

吉田中 HP「学校日記」

「校長 vision」お見逃しなく!!



ありがとう 俺たちの旅

校長 武井 正明

私が「俺たちの旅」と出逢ったのは高校時代。第一志望に落ち、不貞腐れ、部活にも入らず、判で押したような無味乾燥な日々だった。当時は夕方、ドラマの再放送をよくやっていた。そのひとつが「俺たちの旅」だった。

自由奔放に生きる津村浩介（カースケ）何をやってもダメな中谷隆夫（オメダ）いつも決められずグズグズしている熊沢伸六（グズ六）の3人が織りなす青春物語。

当時の自分には何もなかった。人生何が楽しいんだろう…。生きるのが面倒臭い、劣等感の塊。そんな時「俺たちの旅」の、ある場面に釘付けになった。

カースケに想いを寄せる洋子は、純粹すぎる浩介を心配して忠告する。

「誰だって人を裏切らないといけないときがあるのよ…人は裏切ったり裏切られたりしながら、成長していくのよ」…そこに思わずカースケの平手打ちが飛ぶ。

「どこで読んだんだ、そんなこと…何の本に書いてあったんだ？…おまえ、人を裏切るってことがどんなことか知ってるのか？……裏切ったことあんのか!!」

洋子のことが好きなオメダは、彼女を慰め、日頃いいかげんなカースケを非難する。しかし洋子は、自分に向けられたカースケの眼は真剣だった、叱られたことが嬉しかったと返す。つまりこの瞬間、オメダは洋子に失恋するのだ。

何もかも中途半端だった自分に、カースケの問いが直球で突き刺さった。

その3人が時を経て、映画「五十年目の 俺たちの旅」となって帰ってきた。

スクリーンの3人は、確かに歳をとった。しかし88歳になった脚本家鎌田敏夫のメッセージは、時代を越えた今でも観る者に熱く、語り掛ける。

映画のラストが近づくにつれ、もうこれで「俺たちの旅」とお別れだと思えば、寂しさに堪らなくなり、涙が止まらなくなった。

そう、自分の人生、確かに、いつもどこかに「俺たちの旅」がいた。

もうきっと、こんな物語に逢うことは、ないのだろう。

さようなら、俺たちの旅。ありがとう、俺たちの旅。

（関連はホームページ「校長 vision『五十年目の 俺たちの旅』1/13」をご覧ください）

12/12(金)2025 真和祭



聴きごたえある発表、吹部と車いすダンスの初コラボなど盛りだくさんの1日…



12/13(土)第1回新潟県チャレンジカップ (白根カルチャーセンター)



12/18・19 異学年交流会



12/22(月)若葉にんじんの収穫



2026年の花はアイリスから!!



1月下旬の主な行事

- 16(金) 議案審議 PTA 三役会
- 20(火) 評議会・専門委員会
- 21(水) 3年進路保護者会(~22日)
- 23(金) 質問教室(国数英)

- 26(月) 質問教室(理社)
- 27(火) 第3テスト(~28日)
- 28(水) 新入生保護者説明会